

Kyoto Prefecture Hospital Association News

創刊号

2013年1月15日

京都府病院協会ニュース

《発行所》京都府病院協会 《発行人》梶田芳弘 〒604-8585 京都市中京区西ノ京梅尾町3-14 京都府医師会館内
 TEL 075-354-6104 FAX 075-354-6074 <http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp/>

創刊にあたって

京都府病院協会会長 梶田芳弘



梶田芳弘会長

新年明けましてましておめでとうございます。

2013年の年頭に当たり、新春のご挨拶を申し上げます。京都府病院協会の会員の諸先生方におかれましては、恙なく新年をお迎えになられましたこととお慶び申し上げます。

この度、京都府病院協会ニュースを創刊することとなりました。京都府病院協会の活動を年2回、協会会員病院にお知らせし、会員の意志疎通を行うことを目的としています。今後、皆様方のご意見を伺いながら、少しでも内容の充実を図るつもりです。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

昨年は、政界の混乱の末、年末に衆議院の解散選挙となりました。東北地方に大きな被害をもたらした東日本大震災の被災地復興は未だ十分とは言えず、国民の関

心が少しずつ薄れがちになるなか、現地の住民は未だ苦難の中にあります。被災地の人々のご苦労を思い、日本人一人ひとりが被災者の痛みを共有し、被災地を今まで以上に応援をしなければなりません。国民が選択した新政権が、左右に偏せず、マニフェストにとらわれず、現実を直視し国民のための政策を実行することを、強い期待をもって見守りたいと思います。

昨年は、ノーベル生理学・医学賞を、京都大学の山中伸弥教授が授賞されました。日本人が心から祝い、素直に喜びを感じた、一番大きな出来事であったと思います。先生は、この栄誉を50歳の若さで得られた異色の経歴を持つ医師であり、医学を志す者に多大な励ましや勇気を与え、近い将来、わが国で基礎医学分野を研究しようとする若い医師が増えることを心から待望しています。先生の御業績やその後の言動から、世界に日本人が、真面目、堅実、礼儀正しい国民性を持ち、歴史的伝統に培われた誇り高い文化を守り育ててきた国であることが実証されました。京都で頑張ってきて良かった。

たと感激しました。われわれは、日本人としての誇りを持ち、今まで以上にアジアの諸国を応援、リードしなければなりません。また政治家のポピュリズムを排し、今年こそ子供や孫の世代に将来の負担を絶対にかけないよう覚悟したいものです。

当協会は京都府民に安心・安全の医療を提供するために、公私とらわれず、病院の医療施設の改善と医療内容の向上を図り、かつ会員病院相互の連携を密にする目的で設立されました。京都府、京都市など行政、京都府医師会や京都私立病院協会など各医療関係団体との強い連携が、京都府の医療発展にとって非常に有益であると考えます。

診療報酬改定も1年後に迫りましたが、国の厳しい財政事情の中、国民の生命を守り地域医療を維持するための改定となるよう、病院団体が足並みをそろえて国に訴え、京都から全国に働きかけていきたいと思っています。

最後になりましたが、本年も会員病院の当協会へのご指導・鞭撻を心からお願い申し上げます。京都府病院協会にとって2013年が実り多い1年であり、会員病院のますますのご発展と先生や職員の皆様方のご健勝を心より祈念し、府病協ニュース創刊のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

京都府病院協会 役員の紹介

(任期 2011年4月1日～2013年3月31日)

会長 梶田芳弘 (公立南丹病院)

副会長 野口雅滋 (京都桂病院)

依田建吾 (京都第一赤十字病院)

会務担当理事 香川恵造 (福知山市民病院)

日下部虎夫 (京都第二赤十字病院)

小西哲郎 (国立病院機構宇多野病院)

内藤和世 (京都市立病院機構京都市立病院)

中嶋俊彰 (済生会京都府病院)

中村孝志 (国立病院機構京都医療センター)

能見伸八郎 (社会保険京都病院)

福井 潔 (N.T.T.西日本京都病院)

三木真司 (三菱京都病院)

宮野前 健 (国立病院機構南京都病院)

山下俊幸 (京都府立洛南病院)

三嶋理晃 (京都大学医学部附属病院)

三木恒治 (京都府立医科大学附属病院)

中島徳郎 (済生会京都府病院)

齋藤信雄 (N.T.T.西日本京都病院)

監

理

事

事



平成25年の新春講演会・懇親会を、1月10日(木)、ホテル日航プリンス京都にて開催しました。当日は新春講演会として、(株)マイファームの創業者である西辻一真氏をお招きし、「自産自消ができる社会へ〜荒地からの挑戦〜」と題してご講演いただきました。講演会終了後は会場を移して懇親会を開催しました。なお、当日は会員病院から約40名の方々にご出席いただきました。

「自産自消ができる社会へ

〜荒地からの挑戦〜

(株)マイファーム 創業者

西辻一真氏

特別講演では、「自産自消ができる社会へ」を理念に、全国各地で体験農園の展開や耕作放棄地解消に向けて取り組まれてきた、(株)マイファームの創業者である西辻一真氏による講演をお聞きました。

マイファームが展開する「農業の枠を超えた事業」は、すでに全国各地で広がりをみせ、体験農園は2012年10月現在で80農園を超えています。また、2011年

の東日本大震災では、震災直後から津波の被害を受けた塩害農地の再生に心血を注がれ、その取り組みはNHK放送でも取り上げられました。

講演の冒頭、西辻氏は被災地での農業再生への取り組みについて紹介され、津波によって被害を受けた塩害農地の復興、そして被災農家の営みの再生への想いを振り返りつつも、1年半にわたる苦闘の日々を語っていただきました。そして、自産自消ができる社会へ向けて取り組む中で、「人」と「自然」の繋がりの大切さを訴えられ、若い力で日本の農業を建て直すという熱い想いが伝わる非常に興味深い講演でした。

(株)マイファームの概要はWEBサイトでご覧ください。

<http://www.myfarm.co.jp/>

講演会に引き続き開催した懇親会では、野口雅滋副会長の司会のもと進行。冒頭、梶田芳弘会長の挨拶に続き、公務ご多忙の中、ご臨席いただいた京都府、京都市、京都府医師会、京都私立病院協会、京都府保険医協会より祝辞をいただきました。その後、西谷裕顧問の乾杯のご発声により開宴、懇親会では終始和やかな雰囲気で見み、盛会裏に閉会となりました。



平成24年度京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰 本会から個人2名、3病院が受賞

平成24年度京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰の表彰式が11月6日(火)に執り行われ、京都府病院協会からは保健医療・救急医療の各部門において、個人2

名、3病院が受賞されました。受賞者は以下のとおり。先生方の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

◎本会推薦

《保健医療功労》

個人の部 福井 潔氏

(NIT西日本京都病院)

団体の部 京都警察病院

《救急医療功労》

個人の部 中嶋 俊彰氏

(済生会京都府病院)

団体の部 舞鶴赤十字病院

◎他団体推薦

《救急医療功労》

団体の部 宇治徳洲会病院

京都府病院協会の概要

本会は京都府内の官公私立病院の代表者をもって組織する団体で、加入病院数は2012年12月現在で58病院となっている。役員は18名で、実際の会務を担う会務

〈平成24年の活動状況〉

(平成24年4月〜12月)

4月	5月	6月	7月	11月	〃
平成24年度の定時総会を開催。事業計画・予算を承認。	京都私立病院協会との合同会議を開催し、意見交換を行う。	第47回京都府病院学会を京都私立病院協会と共催で開催。参加者は過去最高の2,000名を超える。	平成24年度近畿病院団体連合会第1回委員会(主管・大阪府)に本会より4名が出席。野口副会長より近畿各府県病院団体の災害協定の締結について議題を提出。	平成24年度病院長研修を開催、伊勢赤十字病院を見学。	今年度、第2回目となる京都私立病院協会との合同会議を開催。

担当理事14名の他、理事2名、監事2名で構成されている。会務担当理事会は毎月第1火曜日に開催しており、京都府における医療を取り巻く諸問題につき検討を行っている。また、行政関係の各種審議会に委員として役員が参加し、意見具申を行ってきた。なお、今年度の活動内容は左記のとおり。

平成24年度 病院長研修 伊勢赤十字病院を見学

各地の優れた病院を訪問し、その先端技術や施設を見学、病院運営などについて意見交換をする機会として、例年「病院長研修」を実施しています。

平成24年度の病院長研修は11月2(金)～3日(土)にかけて、2012年1月1日に改築移転し、同時に病院名を「山田赤十字病院」から病院名変更した伊勢赤十字病院に決定し実施しましたので、報告します。

今回の参加者は梶田会長以下14名で、重鎮の阿部顧問、齋藤監事にもご参加いただきました。新名神高速道路が開通し伊勢市まで便



広々としたオープンカンファレンス



施設内を見学する参加者

利になったということでした。バスを使用しましたが比較的楽な行程で腰痛持ちの小生も安心して参加出来ました。

伊勢赤十字病院は92ある赤十字の病院の中で最初の支部病院として、1904年宇治山田に創建された伝統ある病院で、幾多の増改築を経て今年、旧病院とは別の場所に、655床、延べ床面積54,000平米でありながら、お伊勢さんに配慮して5階建てという低層で建築されています。病院の形態はほぼ正方形で一辺100m、1周回ると400mトラックと言う広さでした。更に赤十字の院長の中でも切れ者との評価を得ている村林院長のコンセプトである「職員の働く空間を第一」に考えた構造でその真髓が建物の中心に位置する「オープンカンファレンス」でした。3階から5階まで吹き抜けのスタッフの集いの場で、病院の中心でありながらスタッフの専用エリアとし、休憩時間中、職員はそのスペースで仮眠をしようが本を読もうが、電カル端末で業務をしようが自由な空間です。患者とは全く顔を会わせることのない、京都では考えられない贅沢なスペースでした。その他にも女性専用休憩室や院内保育所を完備し看護師の離職率低下に心を砕いておられるようです。職員中心と言いながら、患者さんの利便性に対して十分な配慮がされており、その代表が患者支援センターではなかったかと思えます。1階エントランスホールに入退院管理室、総合相談室、がん相談窓口、地域連携室、訪問看護ステーション、在宅療養支援室を1カ所に集め、また患者図書コーナーを設置し、患者・家族の主體的な医療への参画を支援するスペースと位置づけられていました。診療面では国内2施設目となる術中MRIシステムが導入されており、先進的な医療を行うに十分な機能を備えた一見の価値がある病院だと思いました。

翌日は来年に式年遷宮を控えた伊勢神宮にお参りし府病協の発展を祈念した後、松坂「牛銀」で昼食をとり帰京しました。

(副会長 依田建吾)

「これまでの見学先病院」

平成15年 静岡県立静岡がんセンター

(静岡県駿東郡)

平成16年 麻生飯塚病院

(福岡県飯塚市)

平成17年 高知医療センター

(高知県高知市)

平成18年 福井県済生会病院

(福井県福井市)

平成19年 セントヒル病院

(山口県宇部市)

平成20年 トヨタ記念病院

(愛知県豊田市)

平成21年 日本赤十字社和歌山医療センター

(和歌山県和歌山市)

平成22年 砂川市立病院

(北海道砂川市)

平成23年 小倉記念病院

(福岡県北九州市)



第48回京都病院学会について

京都病院学会は京都府内の病院の医師・看護師をはじめ、様々な職種が日頃の臨床、研究の成果を発表する場として、昭和40年に発足しました。それ以降、毎年その内容と規模を充実させながら回を重ね、今年で48回目を迎えます。

本学会は、京都府病院協会と京都私立病院協会が共催で実施するもので、参加者も両会に加盟する京都府の病院・診療所に所属するすべての職員が対象となります。

第48回の学会は、京都府病院協会が担当となり、6月9日(日)、京都市中京区にある池坊短期大学にて開催を予定していますので、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

◆第48回京都病院学会 役員

学会長 野口雅滋

副学会長 (京都桂病院)

内藤和世 (京都市立病院)

富士原正人 (京都ルネス病院)

中嶋俊彰 (京都第二赤十字病院)

武田隆久 (久野病院)

日下部虎夫 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

久野成人 (久野病院)

病院における防災対策でアンケート実施

副会長 野口 雅 滋

京都府内には災害拠点病院が指定されている。基幹災害医療センターの1病院、地域災害医療センターの7病院総てが京都府病院協会(府病協)加盟病院である。東日本大震災のような大災害が京都府内で起きた時には府病協加盟病院が中心となって医療を安定的に提供することが求められている。また、昨夏のように計画停電が予定されるような時にも、府病協加盟病院は対応が可能なのかを知るために、加盟病院における災害対策について、アンケート調査を行った。

40病院にアンケートを配布し、30病院(75.0%)から回答を得た。

まず建物の耐震・免震についてであるが、「すべての建物が新耐震基準」で建てられているという回答を17病院(56.7%)から得た。耐震診断を受けたのは18病院(60.0%)で、うち11病院(61.2%)で耐震補強が必要な建物が有ると指摘されている。このうち耐震補強工事が完了しているのは3病院だけで、残り8病院では耐震補強工事が完了していない。また免震構造の建物のある病院は3病院(10.0%)にとどまった。

備蓄・必要物資の確保計画(表1)では、飲料水で80%、食糧で90%の病院が「計画あり」と回答した。備蓄量は「～3日分」が最も多かった。医薬品については17病院(56.7%)と半数以上が「計画なし」と回答した。

表1 備蓄・必要物資の確保計画

	飲料水	食糧	医薬品
計画あり	80.0%	90.0%	43.3%
計画なし	20.0%	10.0%	56.7%

ライフラインとしての給水設備(表2)は29病院(96.7%)で受水槽を準備していたが、備蓄量は1日分以下が21病院(72.4%)であった(表3)。井戸設備を備えている病院が10病院(33.3%)存在した。

表2 建物への給水における受水槽の利用

受水槽あり	29	96.7%
受水槽なし	1	3.3%

表3 受水槽(高置水槽を除く)の容量

半日分	4	13.8%
1日分	17	58.6%
2日分以上	4	13.8%
不明・その他	4	13.8%

電気設備としての自家発電機は総ての30病院(100%)で設置していたが、その稼働時間は21病院(70.0%)で、24時間未満であった(表4)。また実際に自家発電を6時間以上試運転させたことがあるのは5病院(17.2%)にとどまり、想定通り発電可能かは不明であった。

表4

備蓄燃料による自家発電機の稼働可能時間

3時間未満	13.3%	3日未満	23.3%
6時間未満	10.0%	1週間未満	6.7%
12時間未満	26.7%	2週間以上	0%
24時間未満	20.0%	不明・その他	0%

通信設備については、災害医療センターに指定されている病院が多いこともあり、20病院(66.7%)が防災無線を設置しており、広域災害救急医療情報システム(EMIS)にも12病院(40.0%)が参加していた。

患者搬送用や物資搬送用のヘリコプターの離発着が可能と回答したのは12病院(40.0%)であった。ドクターヘリを配備している病院も2病院存在した。

27病院(90%)で、災害を想定した防災マニュアルを策定している(表5)。うち18病院(66.6%)で定期的な見直しを行っている(表6)。しかし、ライフラインの停止までを想定して訓練を行っているのは5病院(16.7%)であった。他の医療機関との間で、連携・応援体制を策定しているのは9病院(30%)で、医療従事者の派遣、患者搬送、医薬品の提供などの連携・応援であった(表7)。

表5

災害を想定した防災マニュアルの策定

策定している	27	90.0%
策定していない	3	10.0%

表6

防災マニュアルの定期的な見直し

見直している	18	66.6%
見直していない	9	33.4%

表7

他院との連携・応援体制

医療従事者の派遣	7	飲料水・食糧などの提供	2
患者搬送	6	その他	1
医薬品の提供	5		

府病協加盟病院には災害拠点病院が多く含まれていることもあり、防災対策が取られている病院が多く見られた。しかしそれでも、阪神・淡路大震災や東日本大震災のような大災害に対しての備えが充分であるかどうかは心もとない。また、個々の病院がどれほど災害に備えたとしても、大災害時には一病院だけで対応しきれものではない。病院間の連携が必須となってくる。京都府内だけでなく、他府県の病院群との広範な連携も必要かもしれない。今後、そのような連携の構築を模索していくことが重要であると思われる。

発行が切望されていた、府病協ニュースの創刊号を関係各位のご協力のもと、無事発刊することが出来ました。

衆議院選挙では自民党が圧勝し、民主党政権よりは良くなるだろうと国民は期待しています。しかし、3年前には自民党政権に見切りをつけ、少しはましかと民主党政権を選択したのです。先行きの不透明感は拭えません。

終戦直後は確かに何もない時代だったかもしれませんが、自分達が今後向かうべき方向ははっきりしていました。頑張れば、今より生活が良くなることも分かっていました。でも、今は頑張っても、今より良い生活が送れる保証はどこにもありません。他国の経験したことの無い人口減少、少子超高齢の時代を、確固たる指針なしに手探りで進んでいかなければなりません。

その様な時代だからこそ、社会保障は不可欠です。安心・安全な医療の提供も求められています。京都府内で医療を安定的に提供し続けることが京都府病院協会に所属している病院群の役割です。

府病協ニュースが各病院の進むべき方向を示す、何らかの指針となることを期待しています。(野)

編集後記